

令和8年1月1日号

まちなみ通信 No. 80

～ 全国の重要伝統的建造物群保存地区 ～



廿日市市宮島町のスタンプ

一 出羽島 (徳島県 牟岐町伝統的建造物群保存地区) の紹介一

現在、島の全部又は一部が重要伝統的建造物群保存地区に選定されている地区は宮島を含め全国6地区ありますが、本号ではその中でも一番小さい離島である出羽島を紹介します。

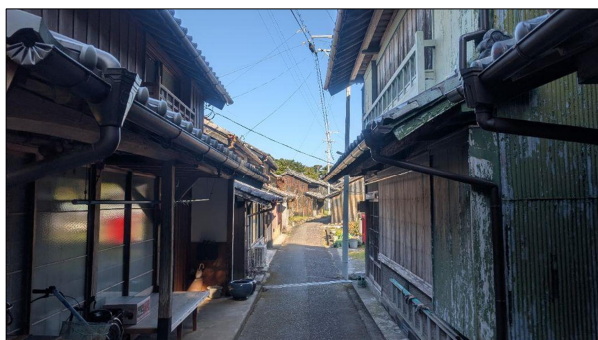
一島の概要一

出羽島は、徳島県南部に位置する牟岐町の港から連絡船で約15分の沖合に浮かぶ小さな島で、寛政12年(1800年)ごろから漁村集落の形成が始まりました。明治後期から昭和戦前期にかけてはカツオやマグロ漁などの沿岸漁業で大変栄え、人口は一時1,000人を超えましたが、現在は約70人が暮らす静かな島となっています。



一建物の特徴一

天保11年(1840年)を最古とし、江戸期から昭和初期にかけて建てられた伝統的な建物が良く残っています。その大半は道路に面して建つ間口3~4間規模の町家であり、二階以下の切妻造・平入が特徴です。



現在も島内に車が入りません。昔ながらの小路が今も残っています。



典型的な出羽島の町家です。2階部分は船底の防水に使うコールタールを塗っています。



出格子の上部には、欄間細工が施されており、住人のこだわりと愛着を感じます。



持送りを有する町家が多いですが、シンプルな形状であり、宮島のそれとは異なります。

～ 伝統的建造物の紹介 No.14 《佐々木家》 ～

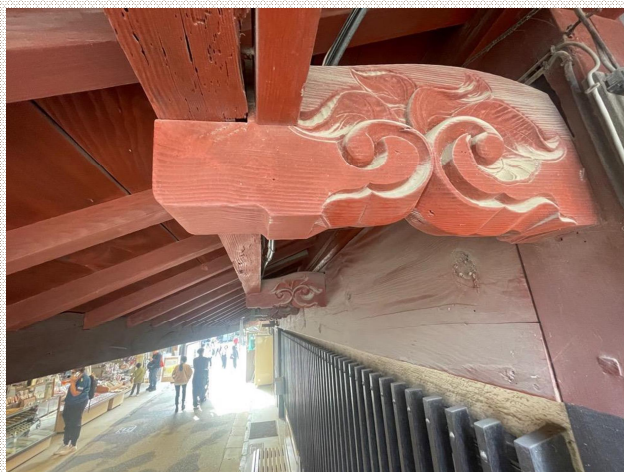
大町に建つ比較的大きな元商家の町家です。明治39年前後に建てられたと推定され、主屋は切妻平入りの2階建てです。

新築時は平屋(一部2階建て)でしたが、大正末期に2階を大きく増築し、今の姿となりました。敷地形状は間口が約7間半、奥行が約6間であり、奥に広がる台形型となっています。

外観について、表は土壁造りに木製建具と格子で構成され、側面は全面板張りとなっています。また、天井裏は塗籠(ぬりご)めされ、基礎部分は切石が使用されています。



五重塔へ向かう石段下に位置する佐々木家は板壁の姿が特徴的ですが、昭和中期の古写真からは真壁土塗り壁の姿が確認できます。



宮島島内では趣向を凝らした様々な持ち送りを見ることができますが、佐々木家のものはベンガラ色の彫りが深いもので一際、目を引きまます。

—相談受付中— 【補助制度】 シロアリ駆除しませんか？

伝統的建造物の保存同意をいただいている所有者の方を対象に、シロアリ駆除のための補助制度を準備しています。(補助率9/10 上限100万円 ※予算に限りがあります。)

シロアリ駆除は一般的に4月～9月頃が効果が高いと言われているため、来春の駆除に向けた相談を受け付けています。下記連絡先にご連絡ください。

【建物相談会のご案内】

宮島企画調整課の職員(建築職)による、建物相談会を実施します。相談内容に応じて最良のアドバイス・ご案内等をさせていただきます。

○日時：令和8年1月15日(木) 10時00分～16時00分〈予約は不要です〉

○場所：etto 宮島交流館 1階会議室

○相談事例：建物のお困りごと(雨もり、シロアリ、外壁の劣化、耐震化など)や補助制度のことなど

※ 相談等に関して知り得た個人情報を利用目的以外の目的に利用し、又は第三者に提供することはありません。

まちなみ通信 No.80 (令和8年1月1日) 発行

廿日市市 宮島企画調整課 歴史まちなみ保存活用係 TEL(0829)30-9119 FAX(0829)32-1059